

## 先進事例調査結果（概要）

### 1. 調査の目的

温泉資源、まちなみ、景観、歴史文化、地域資源などを活かし温泉地の総合的な魅力向上を図るために必要となる事項を整理するうえで、今後の温泉地の活性化策の参考とするための事例調査を実施。

### 2. 調査結果概要

調査対象は、各地で実施されている温泉の効能及び周囲の多様な自然環境でのウォーキング、地域資源などを活かし活性化を図っている温泉地（7事例）。

No	観点	温泉地名 (所在地)	背景・課題	主な取組み内容	概算 事業費	主な効果	継続にあたっての課題・成功ポイント (●：課題、○：成功ポイント)	取組み実施にあたって 国や自治体に期待される役割
①	健康	かみのやま温泉 (山形県上市市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>友好都市として交流しているドイツのクアオルトについて<b>学ぶ機会</b>があった</li> <li><b>国民健康保険医療給付費</b>や<b>高齢化率</b>が県内でも<b>高水準</b></li> <li>東日本大震災の影響もあり、年間<b>宿泊客数が減少</b>傾向</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：自治体、ターゲット：(健康増進)市民、(交流人口)中高年層の女性</li> <li>「気候性地形療法」を取り入れたウォーキング参加者に共同浴場無料券や優待券等を配布し<b>その後の温泉入浴を促進</b></li> <li><b>クアオルト推進室</b>を設置し、保健師やウォーキングガイド業務を行う<b>健康運動指導士等から構成</b></li> </ul>	(初期投資) 2,000万円 (クアオルト事業) 2,000万円 (温泉健康施設関連事業) 1,600万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>クアオルト体験プログラムの受け入れが可能となった</li> <li><b>関心を持つ旅館が増加</b></li> <li>来訪者との交流による市民の<b>ソーシャル・キャピタルの醸成</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 市民及び地域事業者等における<b>正しい理解と認知度の不足</b></li> <li>○ 短期的な成果を積み重ね、浸透度の一層の向上を図り、本事業に関わる人を増やしていくことで、まずは<b>住む人が誇りを持てる事業</b>に時間をかけて育てていくこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民及び来訪者の<b>的確なニーズ把握</b></li> <li>市民、地域・団体、事業者が事業に関わり<b>活動しやすい環境づくり</b>の支援</li> <li><b>財源確保</b>の支援</li> </ul>
②	まちづくり	城崎温泉 (兵庫県豊岡市)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>労働力不足</b>など(後継者不足による旅館等の廃業)</li> <li><b>閑散期の集客不足</b></li> <li><b>温泉地としての限界</b>(豊岡市残帯での周遊)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：官民、ターゲット：外国人観光客</li> <li>過疎債等を有効に活用しながら、過疎地域のやる気と元気をつくりだす取組みを開始(H22.4~)</li> <li><b>地域住民からの提案事業を中心に</b>、取組み計画を策定</li> </ul>	(H23~H27) 43,500万円 (H26~H28) 12,300万円	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>観光客入込数(宿泊)の増加</b>(約1.7割増、約178,000人増)</li> <li>6次産業として<b>多産業</b>に効果</li> <li><b>観光消費額の増加</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 官民及び民衆の<b>対話と共感</b>、そして<b>連携</b></li> <li>○ <b>情報の共有</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>活動費</b>の支援</li> <li><b>先進事例</b>等の紹介</li> </ul>
③	熱利用	土湯温泉 (福島県福島市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>東日本大震災並びに原発事故により、旅館が廃業し温泉地としての<b>収容規模が縮小</b></li> <li>県外からの<b>団体観光客</b>が約1割~2割戻ってきていない</li> <li>高齢化率の上昇、空き家の増加に伴う持続可能な生活圏の維持が課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：民間、ターゲット：不特定</li> <li>蒸気泉を利用した<b>バイナリー発電</b>や小水力発電を実施</li> <li>再生可能エネルギー事業を活かした<b>エコツーリズム事業</b>や、温泉熱を活用した<b>エビ養殖事業</b></li> </ul>	(再生可能エネルギー事業) 100,000万円	<ul style="list-style-type: none"> <li>再生可能エネルギー関連だけで年間2000人の増員。その<b>6割が宿泊に繋がっている</b>。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生可能エネルギー事業で得た売電収益を、持続可能な生活圏維持のための事業への展開</li> <li>○ 正確な維持管理ができる<b>人員数の確保と人材育成</b></li> <li>○ <b>地域との合意・創意に基づいたまちづくり</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画一的な支援だけではなく、地域の実情にあった<b>細やかな支援と指導</b></li> <li>許認可等についての<b>規制緩和の考慮</b></li> </ul>
④	アクティビティ	野沢温泉 (長野県野沢温泉村)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>宿泊施設経営者の高齢化、後継者不足</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：民間、ターゲット：不特定</li> <li>スキーによる村おこしの先駆け</li> <li>スキー場開設による<b>雇用の創出</b></li> <li>100余年の間スキー場の拡張、ゲレンデ整備、ゴンドラ・リフト整備などの<b>環境整備を実施</b></li> </ul>	該当データなし	<ul style="list-style-type: none"> <li>インバウンドに取り組むことで、海外からの観光客入込数が増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ハード面の維持(ゴンドラ、リフト改修、温泉街からのアクセス整備など)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
⑤		蔵王温泉 (山形県山形市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済的状況や後継者不足により<b>温泉地が衰退</b></li> <li>夜の人通りが少なく、<b>宿泊客による外歩きが減少</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：民間、ターゲット：不特定</li> <li>宿泊施設が中心となって、<b>夜の温泉街散策ツアー</b>を開催</li> </ul>	20万円/年	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎年実施することで地元温泉街での<b>知名度が上昇</b></li> <li>地元のテレビ局や新聞社による取材(=PR)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>案内人の確保</b></li> <li>○ 新規案内コースの設定(<b>マンネリ化防止</b>)</li> <li>○ <b>案内人の教育方法</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特になし</li> </ul>
⑥	効能(泉質)	玉造温泉 (島根県松江市)	<ul style="list-style-type: none"> <li>昭和からバブル期に向けて大型旅館化などの開発が行われたが、旅行形態の変化(団体旅行→個人旅行)についていけず<b>バブル期以降は温泉街も旅館も衰退</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：民間、ターゲット：20~30代女性</li> <li>テーマを「美肌・姫神の湯玉造温泉」と設定し、<b>テーマに沿った資源活用を計画</b></li> <li>魅力化された温泉を効果的に宣伝するための、<b>全国的にも先を行くPR方法を計画</b></li> <li>既存組織の改革や、まちあるき観光事業、イベントの見直し等を実施</li> </ul>	(初期投資) 10,000万円 (H21~H23) 22,000万円	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>観光客入込数(宿泊)の増加</b>(約0.3割増、約20,000人増)</li> <li>温泉街における<b>店舗数の増加</b></li> <li><b>新規雇用創出</b></li> <li><b>地域DMOモデル</b>として評価をうける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「稼ぐ」ということを考えて事業を展開すること</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ふるさと雇用再生特別基金事業」の効果検証</li> <li>成果のあった事業についての情報発信(<b>先進事例</b>等の紹介)</li> </ul>
⑦	地域経済	阿寒湖温泉※ (北海道釧路市)	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>観光客入込数の減少</b></li> <li><b>入湯税収額の減少</b></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主導：自治体、ターゲット：不特定</li> <li>観光振興をさらに推進する事業の<b>財源確保</b>のため入湯税率を引き上げを実施</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>増収分を国際観光地環境整備事業やおもてなし事業に活用</li> </ul>	-	-

※⑦に関しては、現在調査中であり資料「入湯税の超過課税とまちづくり」(北海道釧路市より受領)を基に作成